

特集

地域資源を活かした 都市と農村の交流

いよいよ開催！第26回地域づくり
団体全国研修交流会愛媛大会

都市と地方の格差が叫ばれて久しい。都市部の好景気が続く一方、中山間地域では過疎化、高齢化が急速に進展し、コミュニティの崩壊、地域の存続が危ぶまれる集落が増加の一途をたどっている。

そうした地域の住民からは「ここには何もないから、誰も来るわけがない」と、あきらめにも似た声を聞く。しかし都市住民は、農村文化や素朴な暮らしに触れることによって、その「何でもない」風景に癒されたり、人の温かい心に感動したりと、確実に地方へと目を向け始めている。例えば、農村の空き家を古民家風に改修して住みたいといった都市住民のニーズが増えていることなどは、その好例だろう。

このように、地域が抱えている問題でさえも地域資源になり得るということは、少し見方を変えれば、地方にはそこに住んでいる人が気づいていない宝物(=地域資源)がまだまだあるということであり、地域に眠る宝物を都市と農村の交流に活かすことができれば、活気を失いつつある地域の再生につながるのではないだろうか。

今年11月、本県で開催される第26回地域づくり団体全国研修交流会 愛媛大会は、今ある宝物を全国に向けて発信する場であると同時に、全国各地から参加する地域づくり人たちと一緒に、地域に埋もれている宝物を探す良い機会でもある。

いま都市と農村にどのような交流の仕組みが求められているのか。今秋の愛媛大会がそのヒントになれば幸いである。

(研究員 坂本 耕紀)

表紙のことは

日本三大急潮の一つ、今治市の来島海峡。急潮で身の締まった鯛が捕れる所でもある。

急潮を体験する観潮船が大島宮窪港から出航する。この付近は村上水軍の歴史の宝庫であり、船は村上水軍の本拠地「能島」にもゆっくり接近

し、その歴史も物語ってくれる。また、急潮を通り抜けるスリルは迫力満点だ。雄大な瀬戸の海の景色、島なみに掛かる橋を真上に望むこの急潮体験に、「わあ、凄い」と感動を味わった。

柳原あや子



●アングル 1

松山市柳井町商店街再生プロジェクト 1
STEADY CREW (ステディー・クルー) 代表/渡部 勝平

●特集/地域資源を活かした都市と農村の交流

いよいよ開催！第26回地域づくり団体全国研修交流会愛媛大会

癒しの交流でおもてなしのしまなみグリーン・ツーリズム 2
～来て、見て、遊んで、思い出づくり～

しまなみグリーン・ツーリズム推進協議会 会長/西部 知香

上島町「島ツーリズムの会」分科会 4

～瀬戸の小島をまるごと体感～

島ツーリズムの会 代表/村上 律子

自然あふれる砥部町で癒しの特産品づくり 6

砥部町生活研究グループ連絡協議会 代表/佐野 淳子

ホテル保護活動からグリーン・ツーリズムへ 8

～3つの翠地区のシンボルを地域の誇りに…～

双海町翠地区ほたる保存会 会長/河野 喜由

地域資源を活かす！合力のまちづくり 10

～うみ・やま・こころきらきら 佐田岬半島は活きている～

佐田岬地域づくり団体連絡会 代表/塩崎 満雄

農山村に夢と活力を！山奥組のチャレンジは続く 12

むらの新資源研究会・山奥組 事務局/井上 謙二

●論壇/まちづくり

「ディスカバー・マイセルフ」としての 14

「ボランティアホリデー」

香川大学経済学部 教授/原 直行

●アングル 2

地域に生き、世界と出会う 16

愛媛県西条市 ちろりん農園 代表/西川 則孝

●寄稿

農家・農村も元気になるボランティアホリデー 18

農家WEB企画制作/竹森 まりえ

●キラリ光るまち

『交流』の先にあるもの～北杜市の挑戦～ 20

NPO法人 えがおつなげて/小黑 彩香

●特選ブログ/shin 1さんの日記

宝物の見つけ方・活かし方 22

人間牧場主/若松 進一

●MY TOWNうおっちゃんぐ

レクイエム『旧野村警察署講武館』 24

タウンツーリズム講座主宰/岡崎 直司

●研究員レポート

地域が支える農業 ～「鳴子の米プロジェクト」にみる食の再生～ 26

まちづくり活動部門 研究員/清水 和繁

●寄稿

みかんの里に広がる出会いと交流 28

真穴みかんの里雇用促進協議会 会長/松浦 有毅

●Information

第26回地域づくり団体全国研修交流会 愛媛大会 29